



# FY2017

## 2018年3月期第2四半期 決算説明資料

2017年11月15日

株式会社日本製鋼所  
代表取締役社長 宮内 直孝

**JSW**

## JSW ARE

～進化する日本製鋼所～

- 03 当社社長のご紹介
- 04 JSW ARE① ビジョンと経営理念
- 05 市場を創るものづくり
- 06 日本製鋼所のコアコンピタンス
- 07 ものづくりのDNA息づく製造・開発拠点
- 08 先駆的取り組みの軌跡
- 09 JSW ARE② 産業機械事業を成長の牽引役に
- 10 セグメント別業績推移(売上高・営業利益)
- 11 製品別のシェア
- 12 有望な事業領域(プラスチック)

## 業績と計画

～2018年3月期第2四半期業績と通期計画～

- 14 2018年3月期第2四半期 連結実績
- 15 営業利益増減実績
- 16 セグメント別売上高・営業利益・受注高の状況
- 17 素形材・エネルギー事業
- 18 産業機械事業
- 19 設備投資・減価償却費(予想)、キャッシュ・フロー、財務体質の状況
- 20 2018年3月期 通期計画
- 21 営業利益増減予想
- 22 セグメント別売上高・営業利益・受注高の計画
- 23 素形材・エネルギー事業 業績予想

- 24 産業機械事業 業績予想
- 25 受注残高の推移と予想

## 中期経営計画

～JGP2017の進捗と次期新中計の方向性～

- 27 中期経営計画JGP2017(FY2015～2017)の概要
- 28 中期経営計画JGP2017(FY2015～2017)の進捗
- 29 JGP2017 製品群別成果と課題
- 30 次期新中期経営計画の方向性
- 31 ①産業機械で「成長」、素形材・エネルギーは「新生」
- 32 ②素形材・エネルギー事業
- 33 ③産業機械事業 ～樹脂製造・加工機械～
- 34 ④産業機械事業 ～成形機～
- 35 ⑤産業機械事業 ～サービス事業～

## トピックス

～直近の注目トピックス～

- 37 フィルム・シート製造装置
- 38 レーザーアニール装置
- 39 クラッド鋼管

## 財務戦略

- 41 財務戦略

補足資料(43～44)：

売上高・営業利益・純利益の推移 / 主要な財産状況・キャッシュ・フローの推移

## 【ご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

注意書きが無い場合、「当初予想値」は2017年5月19日に開示した数値です。



# JSW ARE

進化する日本製鋼所



## 当社社長 のご紹介



「ものづくり」と「価値づくり」で安定成長企業を目指し、「買い手よし(顧客満足)、売り手よし(従業員満足)、世間よし(社会的責任遂行)、株主よし(株主満足)」の四方よしの精神で皆様のご期待に応えるべく全力を挙げてまいります。

代表取締役社長

# 宮内 直孝

NAOTAKA MIYAUCHI

昭和33年1月30日生  
中央大学工学部卒

昭和56年4月 株式会社日本製鋼所入社  
平成23年4月 当社 広島製作所副所長  
平成25年4月 当社 執行役員、広島製作所長  
平成27年4月 当社 常務執行役員  
産業機械事業部副事業部長(機械事業ユニット長)  
平成28年4月 当社 特機本部管掌、機械事業部長  
平成28年6月 当社 取締役常務執行役員  
平成29年4月 当社 代表取締役社長(現任)

## 【ビジョン(目指すべき企業像)】

### 独創技術で変化を創り出し社会の発展に貢献する企業

日々変化していく社会のニーズを積極的に開拓し、長年にわたり培われてきた固有技術と新しく創り出す技術で、社会の発展に貢献する「変化創造企業」を目指します。

## 【経営理念】

### 1) 顧客に驚きと感動を与え続ける。

お客様の満足と信頼を得るために、つねに市場の声に耳を傾け、顧客の期待を上回る独創的な製品・サービスを提供し続ける。

### 2) 社会との共生を図り、継続的に利益を実現する。

お客様・株主・社員の満足、地域社会との共生及びステークホルダーへの責任を全うしつつ、継続的な利益を実現する。

### 3) 変わり続ける意識を持つ。

堅実に、安定的に製品を提供する風土は堅持しながらも、主体性・創造性・チャレンジ精神を尊重し、変化を求める活力に満ちた企業風土を実現する。  
現場・現物・現状(3現主義) + 現人の徹底を図る。



# 市場を創るものづくり

Innovation / Market Creation

## 時代に先駆ける「最初の一步」をお客さまとともに踏み出す企業。

日本製鋼所は“ものづくり価値づくり”の企業です。品質にこだわりぬくDNAをベースに、前例がなく難易度の高い要請においても発揮される高い専門性、日本企業ならではのこだわりや高い技術要請に絶えず応え続けてきたからこそ培われた強固な顧客基盤が、お客様が最初の一步を踏み出すパートナーとして選んでくださる所以です。

技術力  
Technology

丈夫なもの、壊れないもの、良いものをつくるという「ものづくり企業のDNA」

先見力  
Prescient

時代の流れを的確に見抜き、前例のない分野にも果敢に取り組む

イノベーション力  
Innovation

高い技術力と専門性を背景に新技術を確立し、新たな市場を拓く

## ものづくりNo.1グローバル企業への道を支える「究める力」。



### 広島製作所

“プラスチックテクノロジーとメカトロニクスの追求”をテーマに技術革新に取り組み、最新鋭の製造・組立ラインにより世界的に評価の高い大型造粒機や押出機、フィルムシート装置、そして最先端のプラスチック射出成形機などを生産しています。



### 横浜製作所

IT関連製品のエキシマレーザーアニール装置は高品質な液晶パネル（LCD）や有機ELパネル（OLED）の量産化を可能にし、市場トップのシェアを占めるなど、次世代パネルに対応した装置も開発、市場に送り出しています。

### 室蘭製作所

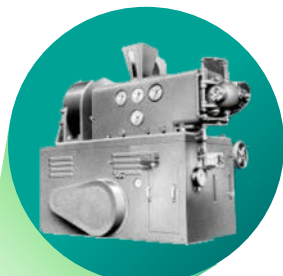
創業以来、伝統ある素形材工場として日本の重化学工業の発展に寄与してきた室蘭製作所。最大14,000トンの油圧プレスに代表される大型設備や150トンESR溶解炉をはじめとする最新鋭設備を有し、超大型から中小型までの鍛鋼品、鋼板・鋼管など、エネルギー分野を中心に世界に向けて高品質な製品を供給しています。





## 火砲製造の技術を活かして押出機を製造

戦前から蓄積した油圧・制御技術を活かして押出機を製造。これを皮切りとしてプラスチック産業向けの事業を拡大。



1950

1960

戦後復興期

## 石油精製圧力容器の海外展開拡大

鍛造・溶接技術を活かした大型石油精製圧力容器が国内のみならず海外においても高く評価。



1970

1980

高度成長期

## レーザーアニール装置を上市しパネル製造分野に進出

レーザーアニール装置のトップメーカーとして液晶パネル関連市場の拡大に貢献。



2000

2010

バブル崩壊後



## いち早く射出成型機の欧州からの技術導入を行う

西ドイツ企業から技術を導入し国内ではいち早く射出成型機の製造・販売を開始。その後中空成形機などの様々な成形機をラインナップし、プラスチック・ゴム製造装置と合わせて総合樹脂機械メーカーとしてのポジションを築く。



## 特殊鍛練法を開発し原子力圧力容器部材の一体製造に世界で初めて成功

大口径リング材製造のための特殊鍛練法を開発。大型鋼塊からの一体製造を可能に。



## クラッド鋼管の本格的量産化開始

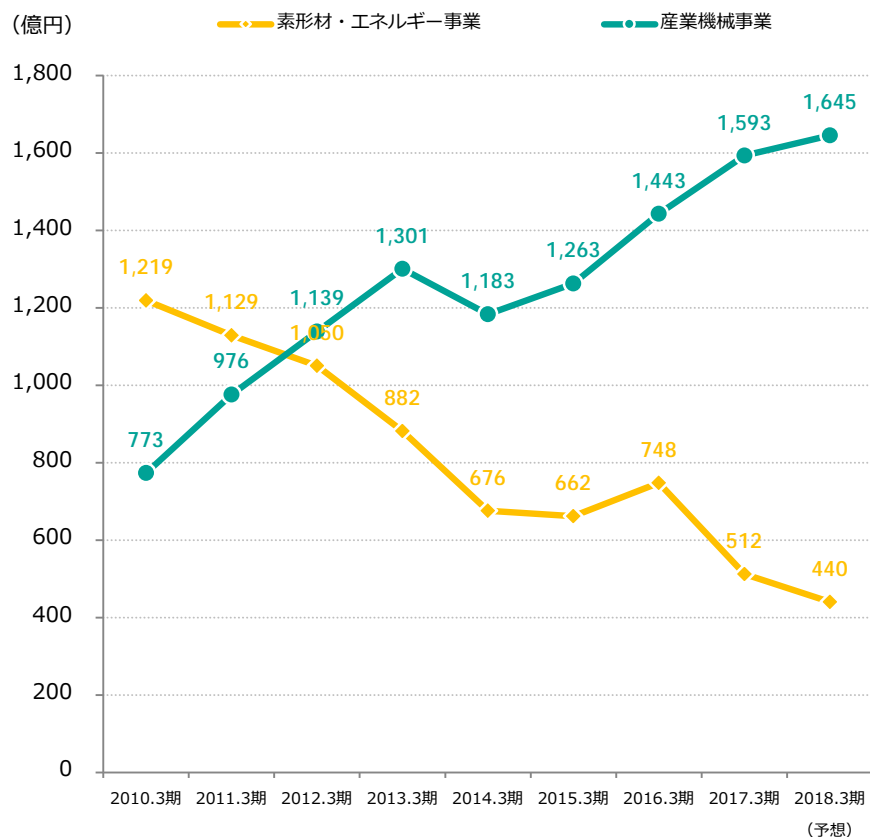
石油会社との枠組み契約により、天然ガス輸送管として認知度が向上し量産を開始。

# 産業機械事業を成長の牽引役に

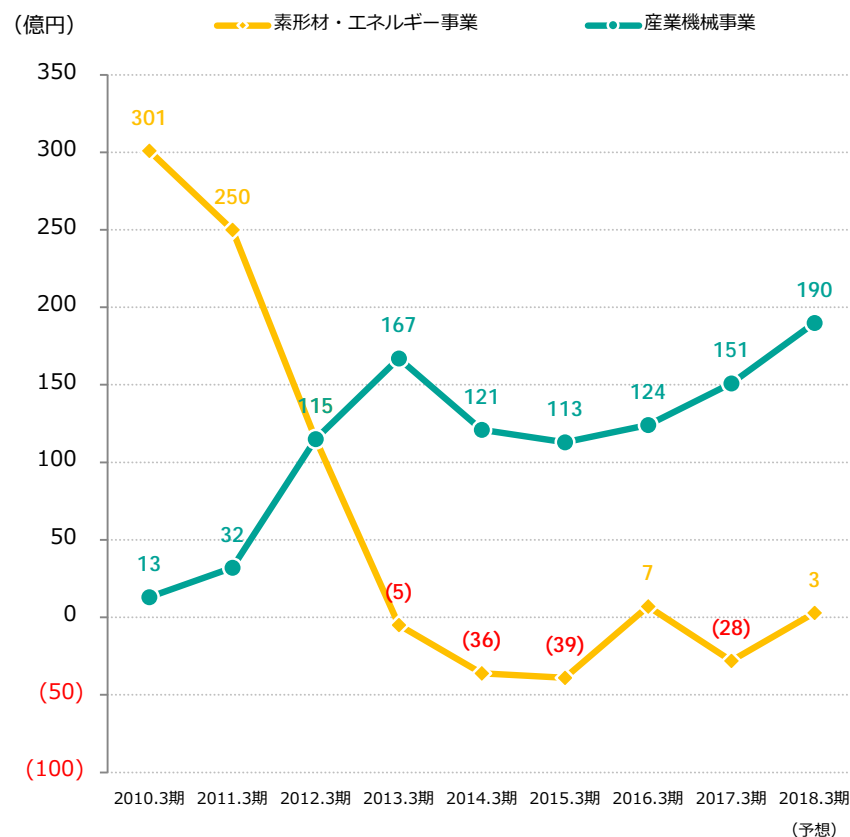
Growing Industrial Machinery

## 業績の牽引役が素形材・エネルギーから産業機械へ変化。

### 売上高の推移



### 営業利益の推移



## 世界No.1の総合プラスチック機械メーカー。



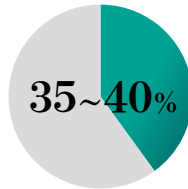
ポリマー重合リアクター（石油化学プラント）

### 造粒機

樹脂のベース原料（ペレット）を量産する装置

- 特徴：**プラスチックペレットを70t/hで連続して生産する世界最大級の装置を製造
- 市場環境：**樹脂需要は世界的に年率2~3%で増加

世界シェア

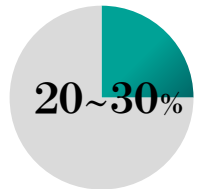


### 二軸混練押出機（TEX）

添加剤を混ぜ合わせ高性能樹脂ペレットを製造する装置

- 特徴：**混練性能を高めるJSW固有技術や脱揮による環境対応など、幅広いソリューションを保有
- 市場環境：**国内・中国・東南アジアを中心に堅調に推移

世界シェア



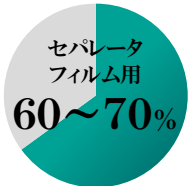
※国内シェア70%以上

### フィルム・シート製造装置

各種の樹脂フィルムやシート類を製造する装置

- 特徴：**光学・工業用等の高性能フィルムから、一般包装用途まで幅広くラインアップ
- 市場環境：**特にリチウムイオン電池向けセパレータフィルムの需要伸長

世界シェア

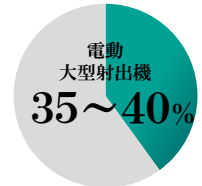


### 射出・中空成形機

各種の樹脂射出成形品・樹脂中空成形品を製造する装置

- 特徴：**多様なニーズに応え小型から超大型までフルラインナップと差別化された多層化技術
- 市場環境：**射出成形機は自動車分野が伸長、中空成形機はアジア、北米で好調

世界シェア



（いずれも当社調べ）



将来的な成長が期待される「プラスチック」分野。





# 業績と計画

2018年3月期第2四半期期業績と通期計画



## 受注高は上振れ コスト改善が進み増益に。

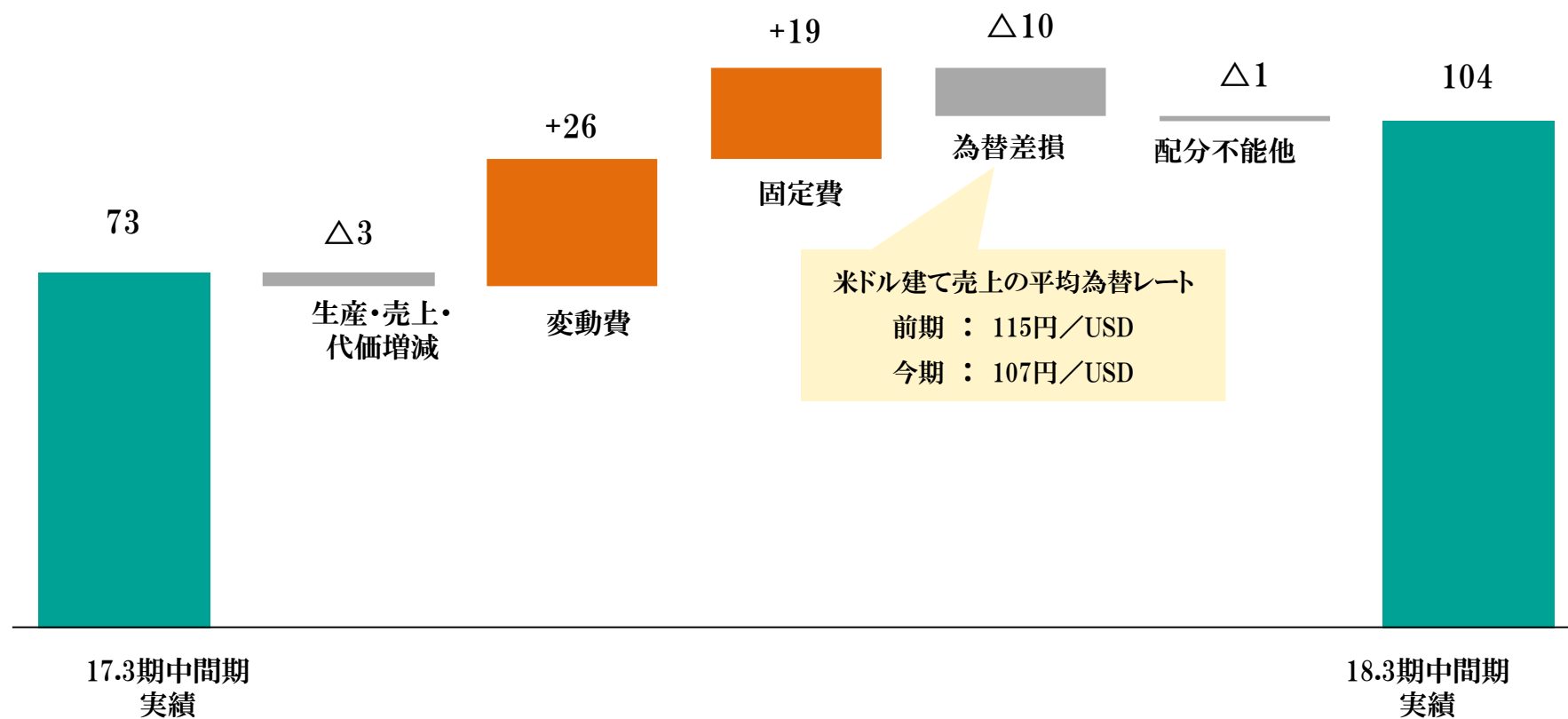
(単位：億円)

	17.3期 中間期実績 (A)	18.3期 中間期		前期比 (C)-(A)	当初 予想比 (C)-(B)
		当初予想 (B)	実績 (C)		
受注高	961	950	1,151	190	201
売上高	1,070	1,050	1,051	△ 19	1
営業利益 (率)	73 6.9%	65 6.2%	104 10.0%	31	39
経常利益	74	65	103	29	38
純利益	51	40	75	24	35
1株当たり 純利益(円)	69.53	52.82	103.32	33.79	50.50
1株当たり 配当金(円)	12.5	12.5	17.5	5.0	5.0

※2016年10月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施したため、上表の「1株当たり純利益」「1株当たり配当金」は便宜上過去に遡って株式併合後ベースの数値としています。

産業機械事業の生産・売上増やコスト改善が寄与し前年同期比43%増益。

(単位：億円)





産業機械事業は受注好調を背景に増収増益、素形材・エネルギー事業は減収。

## 素形材・エネルギー事業

(単位:億円)

	17.3期 中間期実績 (A)	18.3期		前期比 (C)-(A)	通期予想 進捗率 (C)÷(B)
		通期 当初予想 (B)	中間期 実績 (C)		
受注高	183	422	252	69	60%
売上高	234	452	194	△ 40	43%
営業利益 (率)	△ 17 -7.2%	△ 11 -2.4%	△ 5 -2.8%	12	△45%

## 産業機械事業

	17.3期 中間期実績 (A)	18.3期		前期比 (C)-(A)	通期予想 進捗率 (C)÷(B)
		通期 当初予想 (B)	中間期 実績 (C)		
受注高	767	1,560	891	124	57%
売上高	825	1,580	847	22	54%
営業利益 (率)	90 10.9%	150 9.5%	111 13.1%	21	74%

クラッド鋼管の大口受注など受注高は堅調も売上は減少。

## 売上高・営業利益

	17.3期 中間期 実績 (A)	18.3期		前期比 (C)-(A)	通期予想 進捗率 (C)÷(B)
		通期 当初予想 (B)	中間期 実績 (C)		
電力・原子力	99	185	86	△ 13	46%
石油精製用圧力容器	16	10	4	△ 12	40%
クラッド鋼板・鋼管	35	130	41	6	32%
風力発電機	30	7	6	△ 24	86%
その他	24	55	17	△ 7	31%
連結会社他	30	65	40	10	62%
合計	234	452	194	△ 40	43%
営業利益	△ 17	△ 11	△ 5	12	45%

## 受注高

(単位:億円)

	17.3期 中間期 実績 (D)	18.3期		前期比 (F)-(D)	通期予想 進捗率 (F)÷(E)
		通期 当初予想 (E)	中間期 実績 (F)		
	60	145	65	5	45%
	2	10	9	7	90%
	65	145	97	32	67%
	3	7	10	7	143%
	22	50	30	8	60%
	31	65	41	10	63%
	183	422	252	69	60%

## フィルム・シート製造装置と成形機が引き続き好調で牽引。

(単位：億円)

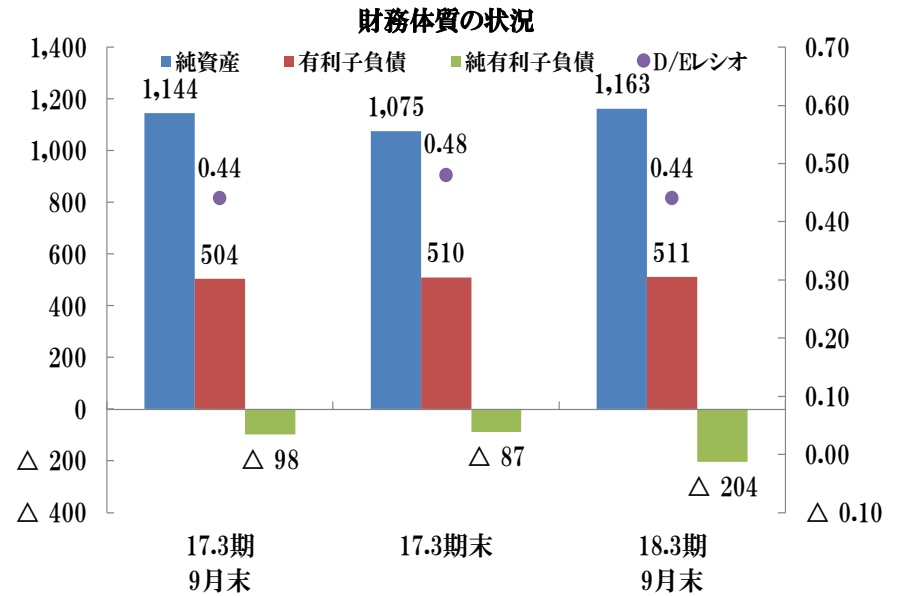
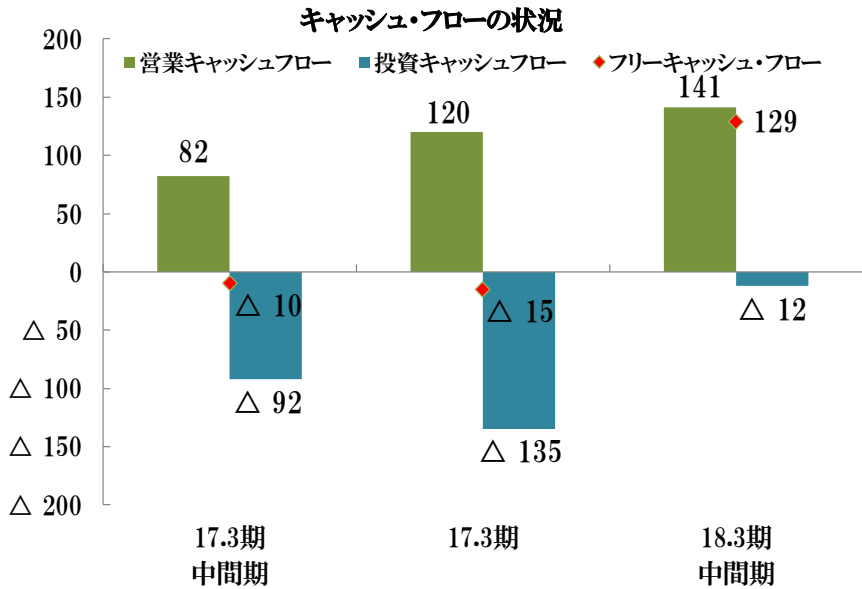
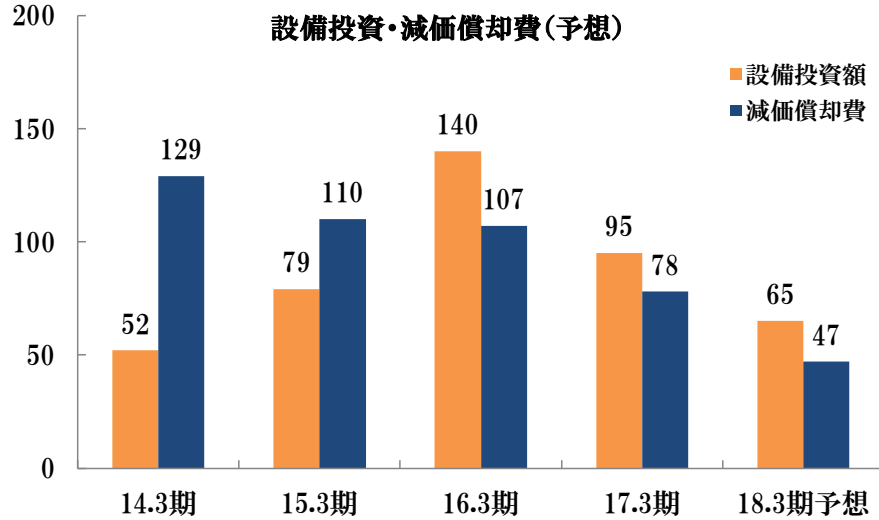
## 売上高・営業利益

	17.3期 中間期 実績 (A)	18.3期		前期比 (C)-(A)	通期予想 進捗率 (C)÷(B)
		通期 当初予想 (B)	中間期 実績 (C)		
樹脂製造・加工機械	182	450	261	79	58%
成形機(連結)	291	580	308	17	53%
その他	267	350	197	△ 70	56%
連結会社他	85	200	81	△ 4	41%
合計	825	1,580	847	22	54%
営業利益	90	150	111	21	74%

## 受注高

	17.3期 中間期 実績 (D)	18.3期		前期比 (F)-(D)	通期予想 進捗率 (F)÷(E)
		通期 当初予想 (E)	中間期 実績 (F)		
	190	480	286	96	60%
	288	590	343	55	58%
	209	280	162	△ 47	58%
	80	210	100	20	48%
合計	767	1,560	891	124	57%

# 2018年3月期第2四半期：設備投資・減価償却費(予想)、 キャッシュ・フロー、財務体質の状況





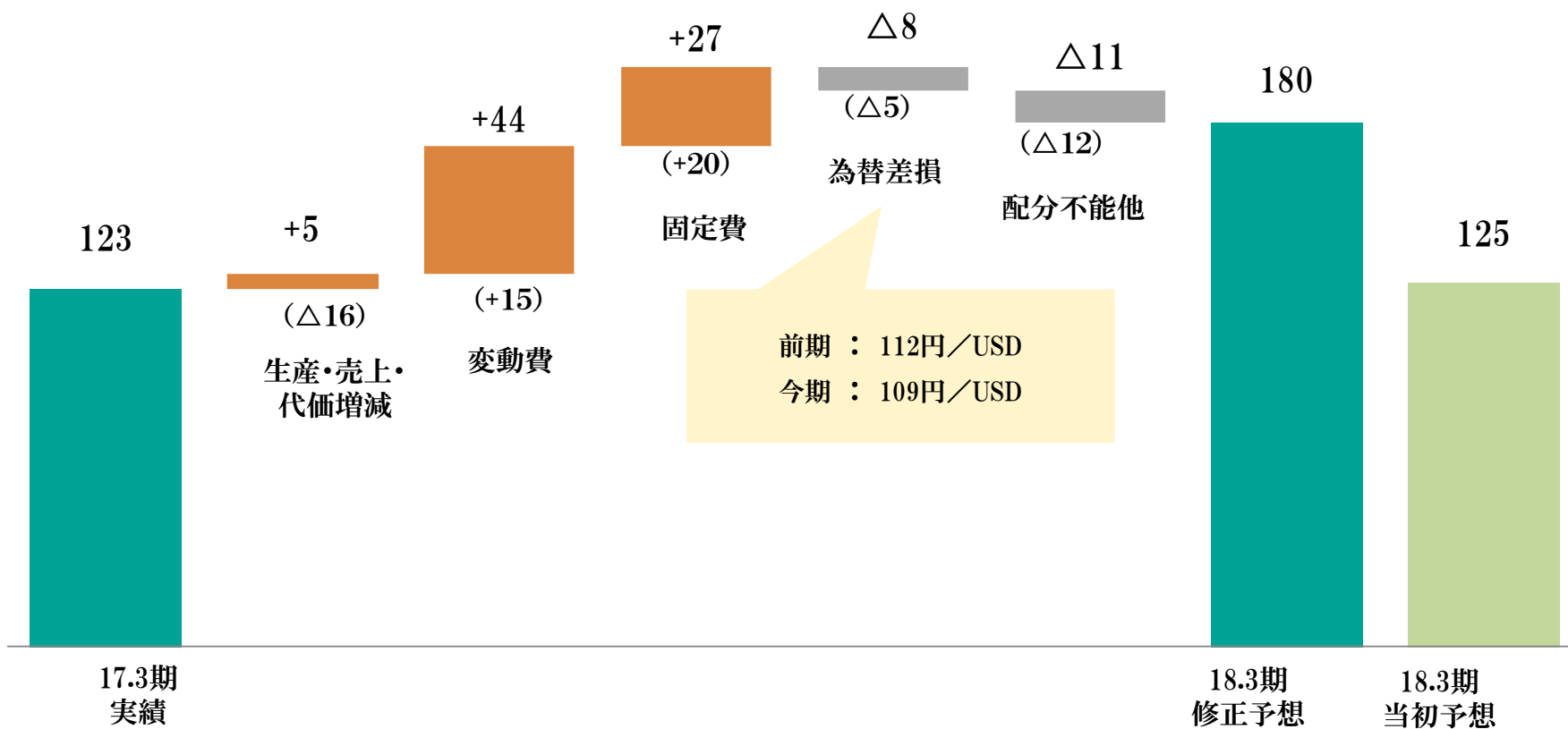
## 受注高・売上高・利益を上方修正 中間配当で増配。

(単位:億円)

	17.3期 実績 (A)	18.3期 予想				前期比 (B) - (A)
		中間期実績	下期予想	当初予想	修正予想 (B)	
受注高	1,775	1,151	1,049	2,000	2,200	425
売上高	2,124	1,051	1,049	2,050	2,100	△ 24
営業利益 (率)	123 5.8%	104 10.0%	76 7.2%	125 6.1%	180 8.6%	57
経常利益	121	103	77	125	180	59
純利益	△ 49	75	35	80	110	159
1株当たり 純利益(円)	△ 67.61	103.32	46.36	108.85	149.68	217.29
1株当たり 配当金(円)	25.0	17.5	17.5	25.0	35.0	10.0

産業機械事業の生産・売上増やコスト改善により前年同期比46%増益を予想。

(単位：億円)



※( )内は当初予想値

素形材・エネルギー事業売上高は下方修正も、その他は全て上方修正へ。

## 素形材・エネルギー事業

(単位:億円)

	17.3期 実績 (A)	18.3期				前期比 (B) - (A)
		中間期実績	下期予想	当初予想	修正予想 (B)	
受注高	195	252	348	422	600	405
売上高	512	194	246	452	440	△ 72
営業利益 (率)	△ 28 -5.5%	△ 5 -2.8%	8 3.3%	△ 11 -2.4%	3 0.7%	31

## 産業機械事業

	17.3期 実績 (A)	18.3期				前期比 (B) - (A)
		中間期実績	下期予想	当初予想	修正予想 (B)	
受注高	1,562	891	694	1,560	1,585	23
売上高	1,593	847	798	1,580	1,645	52
営業利益 (率)	151 9.5%	111 13.1%	79 9.9%	150 9.5%	190 11.6%	39

クラッド鋼管の受注増に期待も、売上は受注時期ズレにより減少。

(単位：億円)

### 売上高・営業利益

	18.3期 中間期 実績	17.3期 通期実績 (A)	18.3期 通期 当初予想	18.3期 通期 修正予想 (B)	前期比 (B)-(A)
電力・原子力	86	193	185	175	△ 18
石油精製用圧力容器	4	17	10	10	△ 7
クラッド鋼板・鋼管	41	135	130	100	△ 35
風力発電機	6	39	7	10	△ 29
その他	17	53	55	60	7
連結会社他	40	75	65	85	10
合計	194	512	452	440	△ 72
営業利益	△ 5	△ 28	△ 11	3	31

### 受注高

	18.3期 中間期 実績	17.3期 通期実績 (C)	18.3期 通期 当初予想	18.3期 通期 修正予想 (D)	前期比 (D)-(C)
	65	111	145	150	39
	9	5	10	10	5
	97	82	145	290	208
	10	△ 133	7	10	143
	30	54	50	60	6
	41	76	65	80	4
	252	195	422	600	405

## 樹脂製造・加工機械、成形機ともに受注高、売上高を上方修正。

(単位:億円)

## 売上高・営業利益

	18.3期 中間期 実績	17.3期 通期実績 (A)	18.3期 通期 当初予想	18.3期 通期 修正予想 (B)	前期比 (B)-(A)
樹脂製造・加工機械	261	361	450	500	139
成形機(連結)	308	576	580	610	34
その他	197	468	350	355	△ 113
連結会社他	81	188	200	180	△ 8
合計	847	1,593	1,580	1,645	52
営業利益	111	151	150	190	39

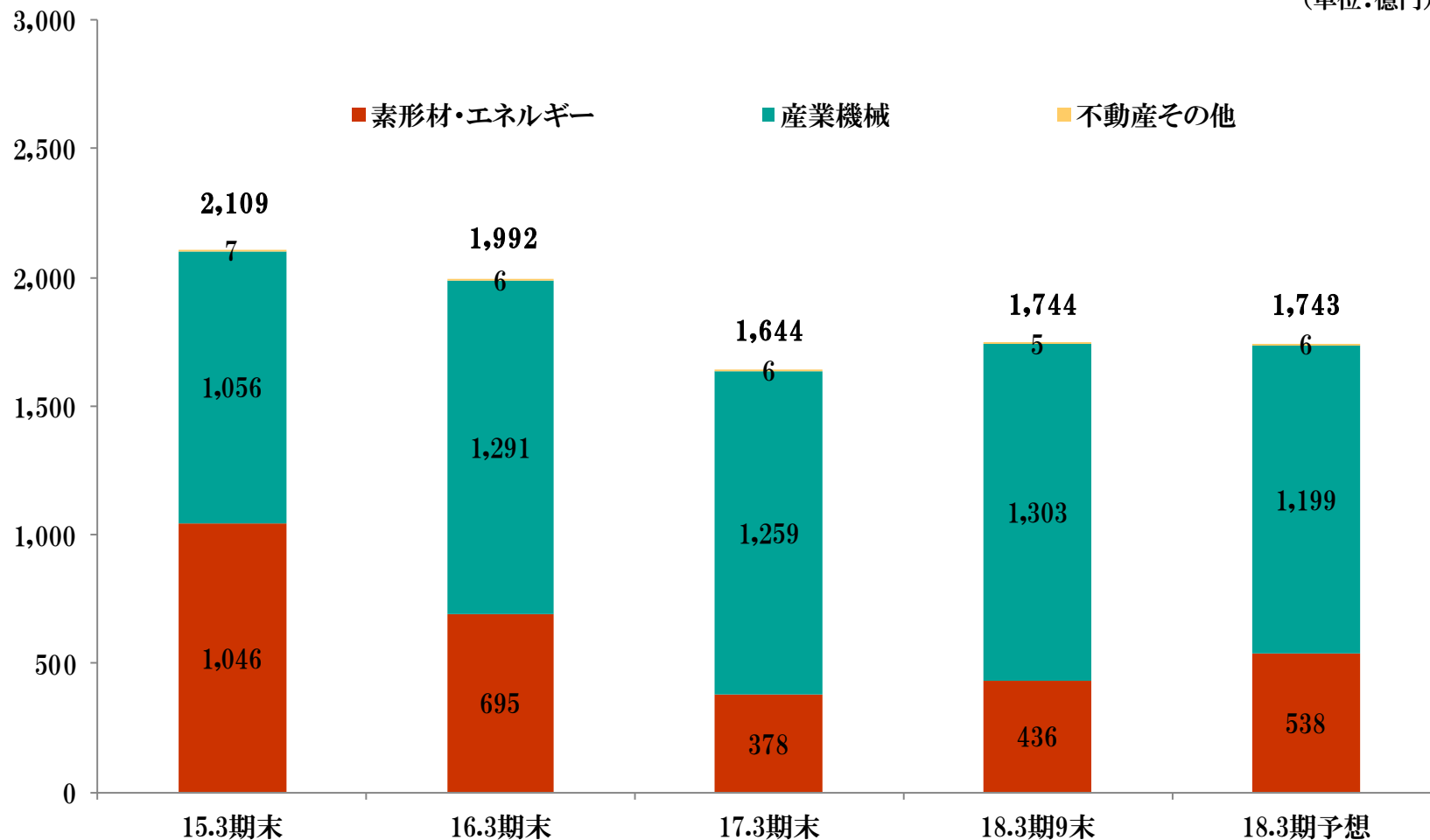
## 受注高

	18.3期 中間期 実績	17.3期 通期実績 (C)	18.3期 通期 当初予想	18.3期 通期 修正予想 (D)	前期比 (D)-(C)
	286	447	480	500	53
	343	575	590	600	25
	162	342	280	300	△ 42
	100	198	210	185	△ 13
合計	891	1,562	1,560	1,585	23



## セグメント別受注残高の推移と予想

(単位：億円)





# 中期経営計画

中期経営計画JGP2017の進捗と次期新中計の方向性



## 『グローバル&ニッチトップ企業グループへの飛躍』

顧客のバリューチェーンの要衝においてトップシェアを目指す

### 基本方針

#### 方針1

現有事業の収益力拡大

#### 方針2

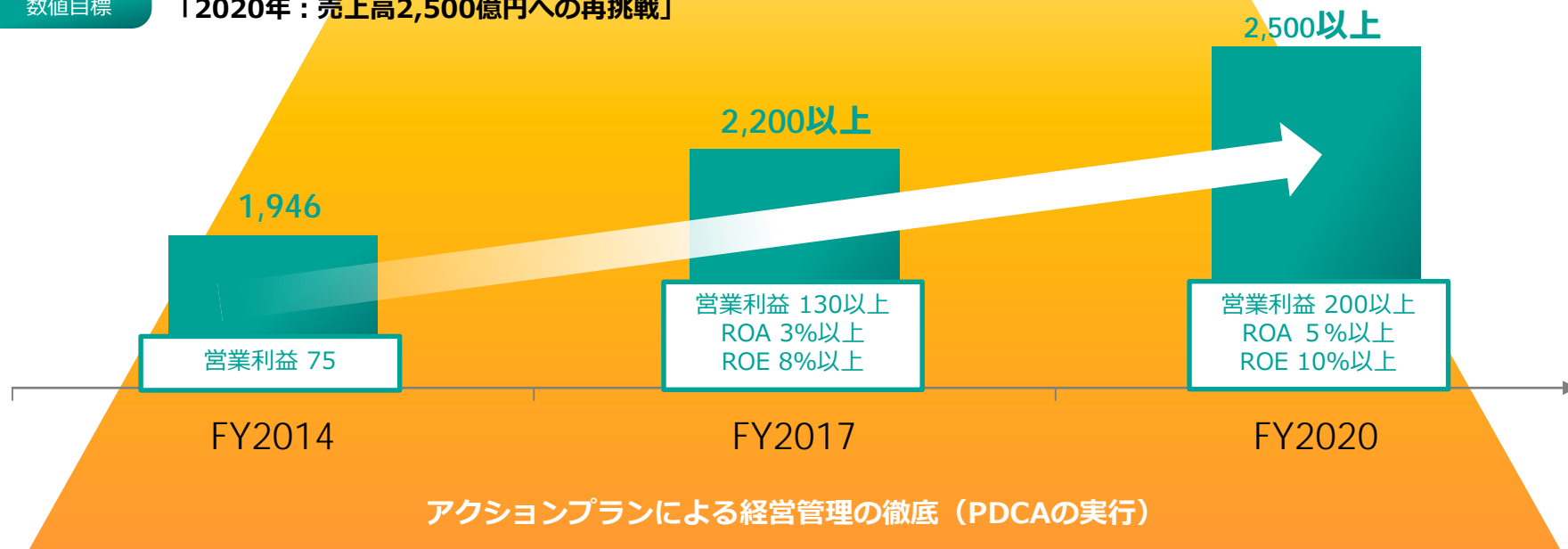
新製品・新規事業の育成・早期戦力化

#### 方針3

グループ経営の強化とアライアンスの推進

### 数値目標

「2020年：売上高2,500億円への再挑戦」



## 素形材は黒字化に目途、産業機械は前倒しで達成し更に伸長。

### 業績推移

#### 素形材・エネルギー事業

「守りの経営」による緩やかな事業伸長とポストJGP2017における再成長を睨んだ布石

(億円)	17.3期	18.3期 (予想)	JGP2017 (18.3期)
売上	512	440	600
営業利益	△28	3	0

減損による固定費減少が寄与したが、天然ガス用クラッド鋼管の売上減少が大きく営業利益赤字。

受注環境は引き続き厳しいが、2期連続減損の寄与や要員の流動等により、マイナスが解消する見通し。

#### 産業機械事業

「攻めの経営」による成長機会の発掘と事業伸長の加速

(億円)	17.3期	18.3期 (予想)	JGP2017 (18.3期)
売上	1,593	1,645	1,580
営業利益	151	190	140

好調な受注を背景に、2016年度の売上高・営業利益とも1年前倒しで中計最終年度目標を達成。

フィルム・シート製造装置、成形機を中心に好調。売上高・営業利益は前期達成した中計目標を更に超える見通し。

#### 現有事業の収益力拡大

- ・ 設備投資によるフィルム・シート製造装置や射出成形機の生産性向上とコスト改善を実現
- ・ サービス事業の拡大で収益性も成長
- ・ 素形材・エネルギー事業は市況が厳しくも、固定費の圧縮で黒字化に目途



#### 新製品・新規事業の育成・早期戦力化

- ・ 全般に新規事業の育成に遅れ
- ・ 開発促進を図るため、10月1日付で研究開発本部 ⇒技術戦略室、新事業推進本部に組織改編。新規事業育成を促進・活性化する。



#### グループ経営の強化とアライアンスの推進

- ・ 広島製作所への経営資源の投入、関連会社収益力の向上、コーポレートガバナンスの強化をそれぞれ確実に推進。
- ・ 小規模事業買収は進むも、アライアンス強化への踏み込んだ取り組みが不十分。
- ・ 室蘭再構築PJTは着実に前進。



	製品群	15.3期 JGP2017開始時の状況	JGP2017の成果と課題
素形材・エネルギー	電力・原子力製品	<b>【競争力強化】</b> ・670トンの鋼塊製大型一体LP炉の本格展開 ・コスト競争力の強化・競争優位性の堅持による海外新設案件の確注	<b>【原子力】</b> 国内の再稼働、中・英等海外の需要動向を注視するも、受注拡大は当面期待薄。 <b>【火力】</b> 得意とする大型火力が減少し小型が増加。コスト競争力の更なる改善が必要。環境を考慮した高効率発電用途の開発は継続。
	クラッド鋼板・鋼管	<b>【事業拡大】</b> ・設備投資・生産性向上 ・天然ガスPJ案件の対応強化・仕様拡大	<b>【鋼管】</b> 需要の端境期で案件数が減少し受注減。一部設備投資を行うも生産量が少なく効果出ず。 <b>【鋼板】</b> 油価の下落から案件数減で需要も低調。新分野の用途開拓が課題。
産業機械	フィルム・シート製造装置	<b>【事業拡大】</b> ・フィルイン・システム対応強化 ・グローバル展開加速（中国プラスほか） ・アライアンスによる事業領域の拡大	・セパレータフィルム用途で好調継続。 ・生産能力の増強とアライアンス強化を推進。
	成形機	<b>【事業拡大：中大型】</b> ・生産体制の増強・新シリーズの投入・拡販 <b>【事業最適化：小型】</b> ・アライアンスの深化による製品競争力の強化	・設備投資による中・大型機の生産能力の拡大実施。J-ADSシリーズの投入による拡販を実現。 ・次期中計では総合メーカーとして更なる飛躍をすべく、新たな営業・技術戦略に着手する。
	レーザーアニール装置	<b>【競争力強化】</b> ・高精細パルズ用差別化技術開発 ・サービス事業強化（中国）	・大型・高性能・高生産性等の差別化技術開発を推進。サービス事業は着実に伸長。 ・OLED向けの市場確保、伸長が期待される分野への参入。



## JGP2020 ～2030年を見据えた基盤作り～

### ◆産業機械で「成長」、素形材・エネルギーは「新生」

#### ①経営資源の最適化とアライアンスの強化

経営資源再配分による適正化 ⇒ 産業機械事業へ積極投資、素形材は売上規模に合った体制へ  
アライアンス、M&Aの推進による事業規模拡大 ⇒ 自前主義からの脱却

#### ②アフターサービス(ストック型ビジネス)の強化

産業機械事業を中心にサービス体制の基盤強化 ⇒ 安定収益の確保、顧客満足度向上  
サービス事業を通じた強固な顧客基盤の構築 ⇒ 次の事業への礎作り

#### ③新規事業探索、育成の活性化

技術戦略室 ⇒ メガトレンドを見据えた新規事業探索  
新事業推進本部 ⇒ 航空機、水素、結晶、成膜 4分野の育成と事業化推進

産業機械で「成長」、素形材・エネルギーは「新生」。

産業機械事業

素形材・エネルギー事業

成長 新生

## 素形材・エネルギー事業

### 新分野、新製品の育成



室蘭製作所

#### 基本方針

- 現有製品で黒字化のための事業体制への転換
- 新分野、新製品での事業展開

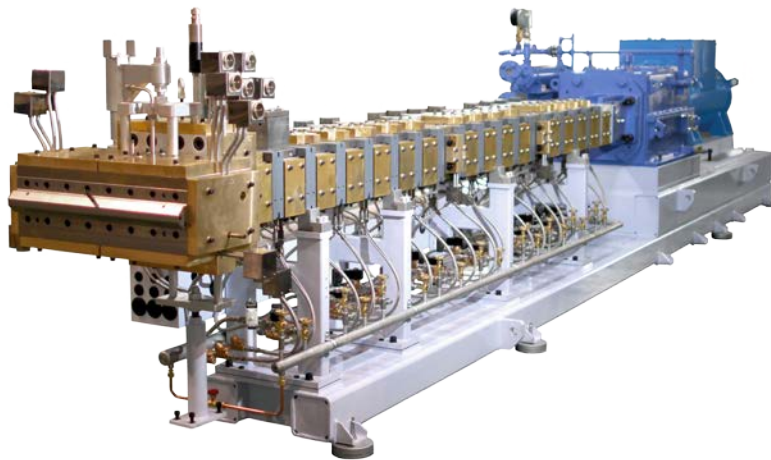
#### 施策展開

- 生産体制のスリム化による現有製品のコスト改革の完遂
- 経営資源の有効活用  
生産資源：月島機械株式会社との協業の検討  
人材資源：他事業部、製作所への流動
- 鉄鋼にこだわらない素材系新分野製品へ参入のための開発投資の推進（航空機部材、結晶材料など）



産業機械事業～樹脂製造・加工機械～

## 事業規模拡大、収益性の追求



二軸混練押出機 TEX54aⅢ

### 基本方針

- 世界トップの総合プラスチック機械メーカーとしての確固たる地位を確立
- 現有事業の事業領域と収益力拡大

### 施策展開

- 伸長製品（リチウムイオン電池用セパレータ、自動車用途向け）への積極投資による収益力拡大
- 事業拡大に向けてアライアンス/M&Aの計画的推進
- 新成長市場（炭素繊維、セルロースナノファイバー）への展開強化

## 産業機械事業～成形機～

### マス・カスタマイゼーション戦略

#### 【マス・カスタマイゼーション戦略】

共通化された基本部分をベースに、地域、顧客ニーズに対応したカスタム仕様の機械を提供し差別化を図る



射出成形機 J-ADSシリーズ (J100ADS)

#### 基本方針

- マス・カスタマイゼーション戦略によるゆるぎないJSW成形機ブランドの構築

#### 施策展開

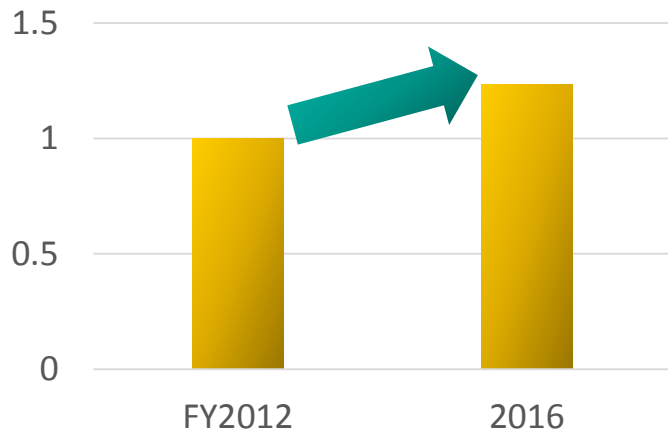
- 重点4地域：日本、北米、中国、東南アジアへの戦力を集中し、ニーズに応じた地域毎に特色のある製品とサービスを提供
- マス・カスタマイゼーション戦略に基づく品揃えの拡充と利益向上の両立
- 先進コントローラを更に進化させ、IoT、AIを取り込んだ製品と技術でお客様にトータルなソリューションを提供
- 名機製作所とのグループシナジーを追求・深化させ、2プラテン超大型機（型締力：3,000トン超）市場へ参入
- 中国ほか海外工場でのカスタム仕様への対応強化



## 産業機械事業～サービス事業～

### 基盤強化、顧客満足度向上

サービス事業売上高の推移  
(2012年を1とした指数表示)



#### 基本方針

- 安定収入源としての更なる強化・拡大

#### 施策展開

- 樹脂製造・加工機械、射出成形機：  
グローバル体制の強化とIoT活用による  
サービス変革、向上  
受身のサービスからソリューション提案へ
- レーザーアニール装置：海外現地法人（中国）の  
拠点を中心としたサービス体制の強化
- 関連装置メーカーとのサービス連携



# トピックス

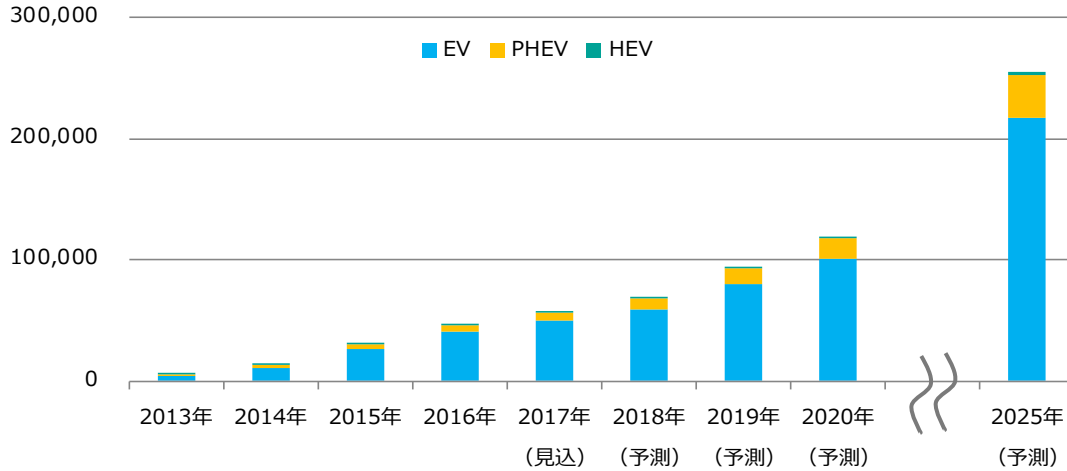
直近の注目トピックス



## リチウムイオン電池 (LiB) 向けで需要旺盛、増産対応を計画的に推進。

(単位 : MWh)

車載用LiB世界市場推移と予測

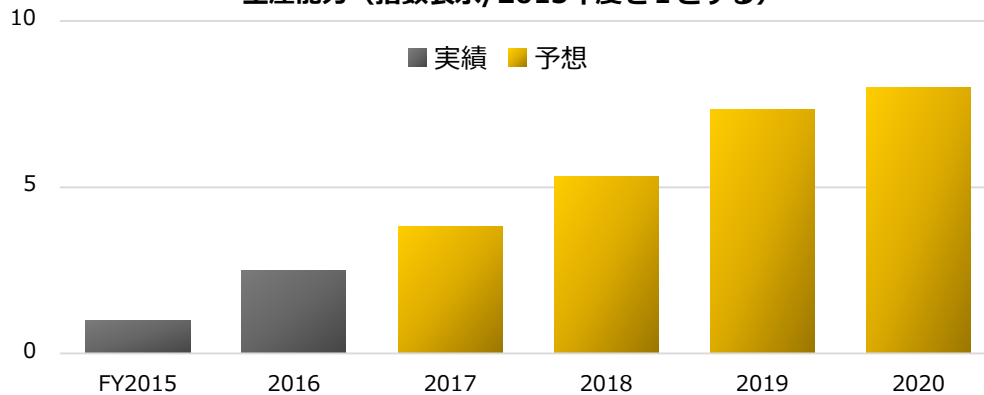


(株式会社矢野経済研究所「車載用リチウムイオン電池世界市場に関する調査 (2017年)」 2017年10月20日発表)



フィルム・シート製造装置

生産能力 (指数表示/2015年度を1とする)



目指す姿

世界No.1フィルム・シート製造装置メーカーとしての安定基盤強化

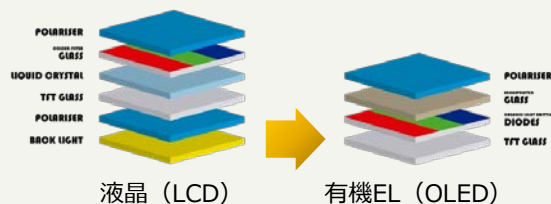
施策

- セパレータフィルム特需に対する生産能力向上
- アライアンス強化
- サービス強化

## 拡大するディスプレイ市場でシェアと収益性向上。

### 事業機会の拡大

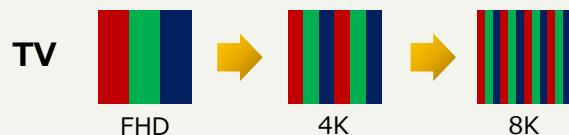
#### ■ 有機EL化（スマートフォン）



#### ■ 画面サイズ拡大



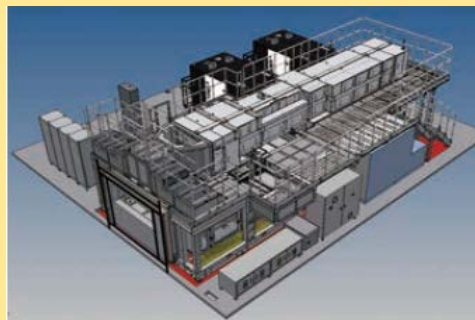
#### ■ 高精細化（大型ディスプレイ）



#### ■ フレキシブル化

→折り曲げ、畳む、丸める

### レーザーアニール装置（ELA）



OLED用ELA装置

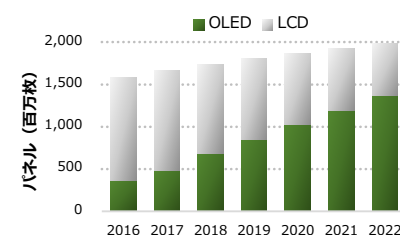
用途

薄膜トランジスタ（TFT）製造工程  
（アモルファルシリコン薄膜結晶化）

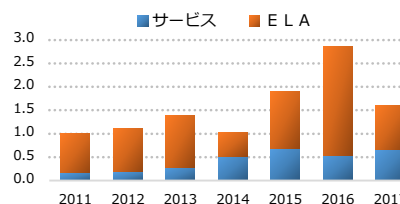
特長

高出力レーザー発振器（光学系）  
超精密大型ステージを採用

スマートフォン用OLED市場予測



ELA&サービス売上推移



### 新製品の投入

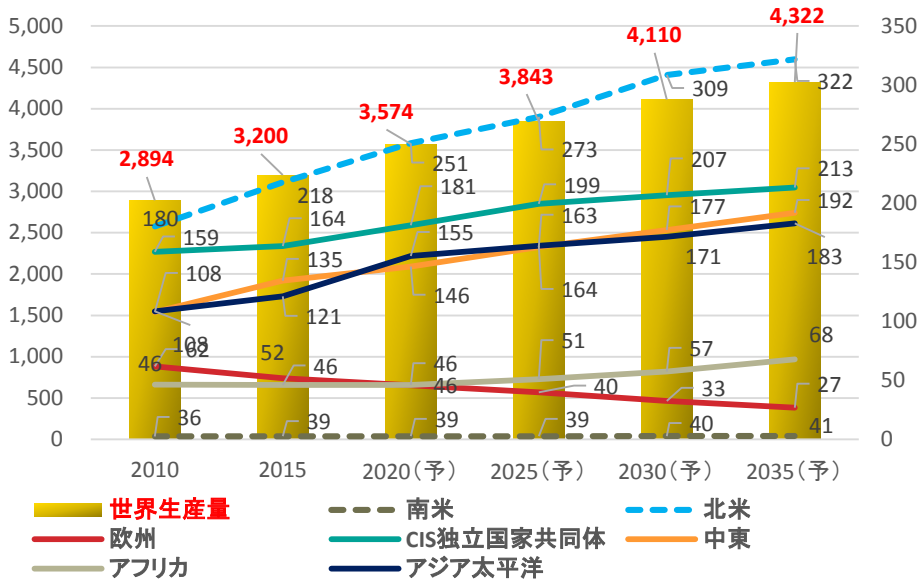
- ELA装置：超高精細大型ディスプレイ（テレビなど）
- 剥離装置：フレキシブルディスプレイ（ガラス剥離）
- 成膜装置：フレキシブルディスプレイ（封止膜）

# 増え続ける天然ガス需要 ～継続的需要に期待～

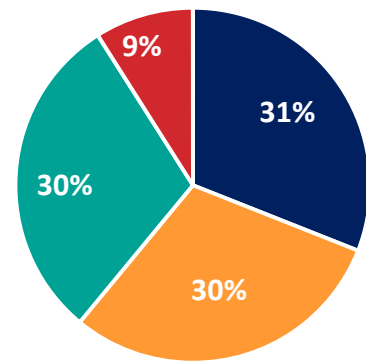
天然ガス生産量推移

2010年世界生産量  
(七地域平均)を  
100とする指数

石油換算  
100万トン



2010-2016年  
クラッド鋼管地域別売上構成



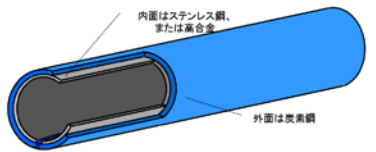
■ アジア太平洋 ■ 中東 ■ CIS独立国家共同体 ■ 欧州

JGP2020次期中計期間中は腐食性ガスの産出が見込まれる中東・アジア太平洋地域に重点をおきプロジェクトの獲得を図りたい。

・出典:2017年B P 統計Natural Gas Production (石油換算100万トン)を当社にて指数化

## クラッド鋼管とは? :

天然ガスの輸送用に使用される  
耐腐食性の複合材料鋼管



## JSW製クラッド鋼管の強み

- ①世界で唯一のクラッド鋼板からの一貫製造メーカー  
(冶金的接合の高機能クラッド鋼板を使用)
- ②高い技術力と信頼性  
(材料・溶接技術の高い知見と豊富な経験)
- ③豊富な納入実績 (主要顧客は石油メジャー)





# 財務戦略



# キャッシュ創出力の強化と有効活用により企業価値を向上。





# 補足資料



	12. 3期	13. 3期	14. 3期	15. 3期	16. 3期	17. 3期	18. 3期 (予想)
売上高	2,213	2,206	1,887	1,946	2,233	2,124	2,100
素形材・エネルギー事業	1,050	882	676	662	748	512	440
電力・原子力	490	374	226	274	192	193	180
石油精製用圧力容器	55	43	41	42	14	17	10
クラッド鋼板・鋼管	317	293	267	162	393	135	100
風力発電機	39	11	17	57	12	39	10
その他	89	123	72	70	69	53	60
連結会社	60	38	53	57	68	75	80
産業機械事業	1,139	1,301	1,183	1,263	1,443	1,593	1,645
樹脂製造・加工機械	338	370	283	325	364	361	500
成形機(連結)	347	409	470	536	564	576	610
その他	325	377	318	250	326	468	355
連結会社	127	145	112	152	189	188	180
不動産その他事業	24	22	27	20	40	18	15
営業利益	239	166	88	75	144	123	180
素形材・エネ事業	115	△5	△36	△39	7	△28	3
産業機械事業	115	167	121	113	124	151	190
不動産その他事業	7	8	11	9	20	9	8
純利益	125	82	55	△53	△166	△49	110

# 主要な財産状況・キャッシュフロー等の推移

	12. 3期	13. 3期	14. 3期	15. 3期	16. 3期	17. 3期	18. 3期 中間期
総資産	3,256	3,039	2,931	3,196	2,931	2,753	2,812
素形材・エネルギー事業	1,472	1,202	1,115	1,114	602	375	-
産業機械事業	931	968	993	1,084	1,243	1237	-
不動産その他事業	135	133	129	130	120	118	-
純資産	1,286	1,343	1,392	1,382	1,113	1,075	1,163
1株あたり純資産額(円) ※17.3期以降は株式併合後	344.28	359.29	372.83	368.81	299.41	1,446.44	1,564.75
自己資本比率(%)	39.21	43.83	47.09	42.72	37.53	38.6	40.9
自己資本利益率(%)	10.17	6.35	4.07	△3.88	△13.46	△4.6	-
営業活動による キャッシュフロー	325	237	115	115	197	120	141
投資活動による キャッシュフロー	△186	△58	△57	△26	△121	△135	△12
財務活動による キャッシュフロー	△68	△152	△150	△29	47	△12	△11
現金及び現金同等物の 期末残高	481	509	422	491	614	586	703





# 進

答えはいつも先にある。  
後ろを振り返るよりも、  
一步でも前に突き進む。  
ものづくりの未来を変える。

**JSW**  
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.  
日本製鋼所



# 速

目の前には誰の背中もないこと、  
新たな時代を拓くものには、  
先陣を行く速さが必要だ。  
ものづくりの未来を変える。

**JSW**  
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.  
日本製鋼所



# 柔

ゴールへ達する速のりは、  
決して1つではない。  
柔らかな発想は人間の特技だ。  
ものづくりの未来を変える。

**JSW**  
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.  
日本製鋼所



# 超

高みを求められるほど  
さらに上を飛んでみたくなる。  
想像するスケールを軽く超えていく。  
ものづくりの未来を変える。

**JSW**  
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.  
日本製鋼所



# 攻

守り続けるだけでは、  
新しい道は開かない。  
攻め続けることが、やがて時代を動かす。  
ものづくりの未来を変える。

**JSW**  
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.  
日本製鋼所

A close-up, grayscale photograph of a hand about to press a button. The button is oval-shaped with a metallic rim and a dark center. The words 'FUTURE' and 'START' are printed in white, bold, sans-serif capital letters, separated by a horizontal line. The background is a dark, textured surface, possibly leather.

**FUTURE**  
**START**

**JSW** 日本製鋼所